

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 10 日 (2020.12.10)

【公表番号】特表 2020-530882 (P2020-530882A)

【公表日】令和 2 年 10 月 29 日 (2020.10.29)

【年通号数】公開・登録公報 2020-044

【出願番号】特願 2020-508462 (P2020-508462)

【国際特許分類】

C 2 2 F 1/053 (2006.01)

C 2 2 C 21/10 (2006.01)

C 2 2 F 1/00 (2006.01)

【F I】

C 2 2 F 1/053

C 2 2 C 21/10

C 2 2 F 1/00 6 0 2

C 2 2 F 1/00 6 2 3

C 2 2 F 1/00 6 3 0 A

C 2 2 F 1/00 6 3 0 K

C 2 2 F 1/00 6 8 1

C 2 2 F 1/00 6 8 2

C 2 2 F 1/00 6 8 3

C 2 2 F 1/00 6 8 5 Z

C 2 2 F 1/00 6 8 6 B

C 2 2 F 1/00 6 9 1 A

C 2 2 F 1/00 6 9 1 B

C 2 2 F 1/00 6 9 1 C

C 2 2 F 1/00 6 9 2 A

C 2 2 F 1/00 6 9 2 B

C 2 2 F 1/00 6 9 4 B

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 2 月 14 日 (2020.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 1】

実施例 2

厚さ 1 . 4 mm の A A 7 0 7 5 アルミニウム合金シートの試料を、5 分間の均熱化時間、3 5 0 / 秒の焼入れ速度での完全な水焼入れ、予備エイジング工程、および自然エイジングを伴う 4 8 0 での溶体化を含む、同一の処理方法に従って調製した。自然エイジング時間と同様に、予備エイジング温度および時間を変化させた。予備エイジング時間は、1 時間、4 時間、または 8 時間のいずれかであった。予備エイジング温度は、7 0 または 1 0 0 のいずれかであった。自然エイジング (N A) を、1 週間、2 週間、3 週間、または 4 週間実行した。試料を、塗料焼付けサイクル (P B) への提供の有無で試験した。塗料焼付けサイクルに供される場合、試料を、2 % の予備ひずみの有無で試験した。図 3 A ~ C は、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の降伏強度の変化を示す。降伏強度 (M P a)

を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図4A～Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の伸び強度の変化を示す。伸び強度(MPa)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図5A～Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の均一な伸びの変化を示す。均一な伸び(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図6A～Cは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の全伸びの変化を示す。全伸び(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図7A～Dは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料の臨界破壊ひずみの変化を示す。図7CおよびDは、試料を塗料焼付けサイクルに供した場合の、予備ひずみの影響を示す。臨界破壊ひずみ(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。図8A～Dは、予備エイジング時間および温度の関数としての、試料を塗料焼付けサイクルに供したかどうかの関数としての、試料のひずみ硬化指数(n値)を示す。図8CおよびDは、試料を塗料焼付けサイクルに供した場合の、予備ひずみの影響を示す。臨界破壊ひずみ(%)を、ISO 6892-1:2016 試験に従って測定した。